



## 銚路沖地震で学んだ 物質文明と文化の違い

湖陵同窓会長 久本 甫

平成の眠りを覚ます大地震、たった一度で皆おジャン。銚路では昭和二十七年以来の大地震でした。奥尻のは津波も手伝って大変な被害と人命が奪われました。昨年はまれにみる冷夏で農作物特にお米は大変な凶作となりました。又夏から秋にかけては台風が頻繁に本土を襲い、水の被害があらちちからで頻発。続いて経済の不況と、まア悪い事は全て出揃ったと云う感じでした。平成の五年を経験した我々は、自然の猛威を天に知らされた警鐘として、神に感謝すべきなのかも知れません。

米の凶作が国際間の農作物の輸入問題にまで発展したり、経済大困日本も凶作と不況で、何も彼もがおかしくなりました。近代都市の代名詞、アメリカのロスが、今年一月の大地震で交通網がズタズタになって、経済も生活もメチャメチャになった事は未だ記憶に新しいところですが。経済大困イコール大困と云う考えは間違っている様です。少し脳ミソの入れ替えをしなくてはいけないようです。湖陵の校訓は「誠・愛・勇」で湖陵健児は「粘り強い」と云う事になっていきます。どちらもメンタルなものも表現ではありませんが、大地震がこよとも、不況であれ凶作であれ、ロスのハイウエイのように、崩れて倒れて流れてお釈迦になると云った心配はいらない様です。我々人類に今求められているのは、成熟しきった技術文明ではなく、後世にまで残るであろうところの「文化」なのかも知れません。芸術的建築も絵画も彫刻も、地震や火災で消失するかも知れませんが、しかしそれはハイウェイや他の物質文明のように、崩れ落ちた時に即粗大ゴミになる様なことはないでしょう。芸術文化は崩れても「文化遺産」と呼ばれますから。「光は東方より」と云いますが、北垂の地銚路に、新しい美意識と文化の芽を、我等湖陵人で生み育てたいのです。

同窓会館建設の話が出て久しくなりません。部活の部屋、講堂、図書室、小ホール等と色々と変遷してまいりましたが、湖陵出身の毛綱氏と云う事もあって、芸術性豊かな会館に落ち着くところであります。現湖陵の近くには、博物館、東中とありますから、三つ目は我々の手で自負出来るものを建てようではありませんか。



## 母校への熱き想い

学校長 笹山 平

新しい年を迎え、同窓生の皆様方には、益々ご健勝のことと存じます。

日頃、久本会長様をはじめ同窓会役員の皆様方に多大なるご指導やご援助をいただき教職員一同感謝いたしております。

一昨年は、銚中二期・湖陵四期、昨年は、湖陵五期・銚中五期の同窓生が、全道、全国から集まり銚路市で同窓会を開きました。これを機に、なつかしき母校に立ち寄り、新校舎を見学し、湖陵ギヤラリーにある旧校舎の模型の前で学生時代の会話を花を咲かせ、おわりに湖陵ヶ丘を望みながら記念写真を撮るなど、限らない母校への愛着を体一杯に表現している姿が今でも私の脳裏に深くきざまれております。

特に、銚中十五期の同窓生は、昭和七年に卒業、年令も八十才にならんとしている方々が、生徒にもどり当時使っていた言葉で会話をしている様は、強烈に私の心の中に残っております。このような姿にふれ、諸先輩が絶え間なくつくり上げてきた奥深い伝統を受け継ぎ、更に新しい伝統をつくりあげるための責任の重みを痛感しているところですが。

さて、生徒の進路状況につきましてお話しいたします。センターテスト受験者数は、ほぼ例年どおり。成績は、全国平均が昨年に比べて下まわっているにもかかわらず、本校はその落ち込みにもかわらぬかけ、特に、上位理系校受験者に期待がかかっております。今、生徒は二次試験にむけて必死の努力を傾けており教職員も一丸となって生徒の目標達成のために最後の指導を行っているところです。

一方、部活動の成果も殆どが全道大会へ駒をすすめました。全国大会には、ハンドボール(男女)アイスホッケー、弓道など、クラブ後援会の財政逼迫でうれしい悲鳴をあげております。

同窓生の皆様方の母校へ寄せる心の熱さに感謝し、一層のご活躍をご期待申し上げます。

# 釧路

# 支部だより

## 東京

### 四十周年をむかえる

### 釧路教職員湖陵会

釧路教職員湖陵会々々長  
(共栄小学校校長)

大 竹 正  
(湖陵5期)



総 会

「日出づる国の北陸に」の歌詞で始まる重厚なメロディーの校歌は、卒業して四十年たつ今も、あの日あの時あの講堂で歌っている自分になって思い起こされる。特に、旧制の中学校最後の入学生であり、新制の男女共学となった湖陵高校を卒業した私にとっては応援歌ナンバー1「湖陵に長し」とともに生涯わすれることのできない青春の歌である。

ところで、釧路教職員湖陵会という会をご存じでしょうか。釧路市及び釧路管内の学校や教育関係機関に勤務する湖陵出身者によって組織される会で、昭和三十年を創立の年（昭和二十四年頃から活動を始めて、形を整えたのが昭和三十年）として本年は四十年になるうとしている。

三十周年記念誌の巻頭に第十一代会長中川邦雄先生は本会創立の趣旨を次の様に記述されている。本会は戦後の釧路教育振興のため湖陵出身教員が大団結したものである。そして、母校を応援し会員の親睦を図ることを目的として結成した、と。

本会の会則第二条に「この会は会員相互の親睦と修養を図り、母校の後援に当る」とある。現在もこの目的にそって活動を続けているので近年の状況を次に紹介する。



懇 親 会



講 演 会

**研修**——教員は常に研究と修養に努めなければならないが、明代の要請で日々変化していく教育の推進に対応する資質の向上のため毎年講演会を開いている。

平成四年度は「子どもの権利条約と日本の子ども」弁護士加藤義明氏（湖陵七期）、五年度は「アイヌホッケーと教育・健康づくり」釧路市教育委員会委員長矢口正光氏（湖陵十期）であった。一般的に教育について突っ込んだ話をされる方は少ないのであるが、し



新 校 舎 見 学 会

れを率直に受け止めることができ。やはり、同窓生であるという心の絆によるものであろうと考えている。

刺激しあつて明日への活力を生む会であつた。

## 東京支部会員よりの近況報告

### 老人大学(二年間)を終えるに

#### ついでに感想文



東京支部 澤田勉  
(釧中25期)

母校の後援——現在の母校には後援会組織が整備され、文化、運動両面の活動に対する援助はスミーズのようであるが、本会が結成された頃は、部活動の用具に随分不足を来たしていたことから少しでも援助したいという願いによって会費から拠出することになったと聞いている。現在は、親同窓会である湖陵同窓会に会費として年十八万円を納め会の運営や母校後援の一助にいただいている。教職員以外の湖陵同窓会では出来ないことだそうである。

さて、釧中・湖陵高校卒業者は日本はもとより、世界各地で活躍している。くまざき第二十七号にも、湖陵同窓会ロンドン支部結成準備会(?)を開催したとあつた。それとは対照的に地元に残って教職に就くものが少なくなっていることは寂しいことである。釧路に生まれ釧路で育つたものが我が郷土釧路の教育に力を発揮し、有為なる人材の育成、心豊かな人間の育成に貢献して欲しいと、教職員湖陵会では願っている。

「今後もブレイクで、希望をもって生きよう……」と思う日々です。

新しき年の始めの 初春の  
今日降る雪の いやしげ吉事  
大伴 家持  
以上。

右去年の暮、感想文として学校に出したものです。

その後、老人大学は校名を、千葉県生涯大学校と改名し、二年卒業後に専攻課程が増設され、今は同大学校江戸川台校舎の社会専攻科(隔週一回、一日四時間)に通っております。

私も古稀の年になりますので、何かと忘れっぽく、又、お世話になった方々に失礼ばかりしております。

アルバムを整理しましたら約十五冊位になり、今回お手紙を頂きましたが、種々の資料もなく、私の履歴書として大新聞に掲載される程のものではないのですが、私なりに略歴を書こうとしたのですが、住んだ場所、行ったところの場所だけでも、釧路市から満州大連市、青島市、興安嶺の札蘭屯遼陽市とその周辺、捕虜になっていた海城市、佐世保に引揚げてから広島、神戸、東京を経て釧路市に引揚げ、その後約四、五ヵ月位、東京にて多くの人の世話にな

り、GHQに行ったり国会内出入りしたこと、その後、釧路市に戻りいろいろなことがあり、丹葉大先輩のお話のようなことが×になり、釧路地裁に勤めることになり書記官として二十一年、執行官として二十年勤務し、六十五才で退職、長男の居住している千葉県に来て、今は年金生活をしている状態です。

簡単にと思つて仲々もの書きは裁判所でのメモ書きのような書記の仕事と違つて面倒なものです。聞かれると話をするには簡単ですが、それで記憶がいや人の名前がでることは、失礼になることもあるうと思ひますので文章にすることは大変なことだと考えますので……。

お電話によれば、東京で同窓会があるということですが、私の兄(世田谷区自由ヶ丘、釧中一五年卒業)もおりますので、出席できるならと思つております。

(澤田勉さんの連絡先は)

〒270-01 流山市西神石三二六

電話 〇四七一一五四一

六九六一  
です。

これが私の千葉県老人大学の、第一日目の授業を終えた日の出来事でした。  
「老人大学とは何をするとところかな……」という好奇心を持って入学したのですが、一番驚いたのは男女共学で、それもほぼ同数の男女が小学校の一年生のように、一緒に並んで座ることでした。

俳句や書をなさるらしく、短冊などを飾りつけた部屋で、お茶を御馳走になり、書や俳句、短歌などの話をしながら、たのしく一時を過しました。  
「定年亭主は ぬれ落葉だ 粗大ごみだ 墓石だ 化石だ……」と云われ、誰れも聞いてくれない昔の苦勞話をするか、むつつりと酒を飲んでいた私でしたが、老犬の生活に馴れるに従つて、だんだんと友人もでき、女の人と冗談の一言も云つて、今迄に経験することのなかつたような青春が戻ってきたように思えて、週一度の登校日が待ちどおしくなりました。

それがもう間もなく、老犬としての二年間を終えるのかと思うと残念です。

# 活躍する同窓生

(紹介シリーズ)

## 妹尾 継 男 (湖陵四期)



〈妹尾氏は右から1人目〉

今回の「活躍する同窓生」は、湖陵四期の妹尾継男さんを紹介いたします。妹尾商店社長であり、社長なども歴任し、人間的にもスケールが大きい方です。遠藤隆吉幹事長より推薦をいただきました。

新橋大通のセオチェーン本店の社長室に現われた妹尾継男さんはがっしりとした体軀と温厚な中に闘士を秘めた企業人の顔そのもの。湖陵四期の妹尾さんは、旧制釧路中学校、釧路高等学校、湖陵高校と教育制度の変革期に計六年間在籍し、一緒に学んだ友が他校に男子のみから共学にと情況はめまぐるしく変わった。

「勉強はさっぱりした記憶がなく家業の農業も忙しく、出席日数も足りないほどでした。でも、六年間いたおかげで、友人もたくさんでき、喧嘩しても仲が良かったし楽しく高校生活を送ることができましたよ」と昔を振り返る。「だから、今の高校生活とはパターンが違っていましたよ」。当時は

大学に進学する人はそんなにおらず、母校を出て農業に従事し、昭和三十六年に奥さんと一緒に小さな食料品店を開いたことが発端となり、現在では市内有数のスーパーを経営し、市内に六店舗、札幌に一店舗を擁し、着実に大きく人生を歩んできた妹尾さんは、「勉強だけではだめだ」と力説する。

娘さん四人が湖陵に通ったこともあり、男沢先生からPTAを手伝ってくれと頼まれ、副会長、会長を十年間、なよりの思い出は湖陵改革にPTAの立場で関わったが旧校舎の面積では、道教委の計画面積に達せず、体育館などの分離も考え、一時は窮地に陥いつたが、町田校長、森校長、長内同窓会長、鰐淵市長や同窓生の協力で市内の文教地区に移転できたのは幸運であり、智慧を出しあった関係者の結束の賜ですよと打ち明けてくれた。

「湖陵の良さは卒業してわかるのですよ。のびのびとした校風で文武両道の雰囲気は実社会では得がたいものですよ」としみじみと語ってくれた。

当時は学制や教育改革に直面している、同級生は定年制に直面している。始まれば終る。では、終らないものは何か。妹尾さんは、一生涯貫いて自分の道を歩こうとしている。

あたたかなふれあい



太陽のように  
明るく暖かい真心で  
良い品をより安く  
ご奉仕する

**セオ**チェーン

**妹尾商店**  
新橋大通1丁目 ☎25-5345

**新富士ストア**  
新富士駅前 ☎51-3467

**愛国ストア**  
愛国西3丁目 ☎36-3399

**白樺ストア**  
白樺台1丁目 ☎91-5423

**昭園ストア**  
昭和北1丁目 ☎51-8853

さつぽろ地下街オーロラタウン  
ギフトブティック

**ペルソナ**

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

**ステーキハウス アポロン**

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023  
営業時間/AM11:00~PM9:00

奥田 達也(舞臺1期)の

# 誠愛勇から

## 野尻 瀨の巻

(釧中12期)



昭和三年九月「釧路文芸協会」

の設立に創立委員として野尻瀨(曠原)は九期的一条正こと迷洋(白揚樹)らとともに釧中在学中ながら参加している。

市民文芸運動の場として釧路新聞が設けた「木曜文芸」の六月一月二十四日付けに野尻は創作「元旦の晩(上)」を載せてもいる。

日華事変のぼつ発から戦時下文化運動は大政翼賛会の文化部門に組み込まれた。釧路支部としての

釧路翼賛芸術聯盟の常任理事、のちに文学部長にも野尻はなる。

さて敗戦後、日本国中が文化の掛声に満ちあふれた時、釧路市文化団体連絡協議会の設立が急がれ、市公会堂の古い建物の一部を借りて佐々木広ら数名の中心となつて野尻が画策するのは、二十二年より二年半市議をやつたからばかりでなく短歌、俳句に「湖陵」と号し、文化の会組織の中心に存在した故である。

軍国主義下(大政翼賛会での)釧路市の文化活動は穩健であつたといえる。ただ戦争犯罪者的な意識が指導者らになつたか。

た幼児が彼の頭を叩いても、叩かれつ放なしにしていた。甘やかす忍耐力は彼独特のねばり強さだ。対人関係にそのねばりはいかんなく発揮されて今に及ぶ。

釧中(五年制)の歴史始まつて以来、十年間在籍の記録をもつ彼。三年制の湖陵高に切り変わつては当然に破られない記録だ。

「誰が威張ろうと、私は皆の倍もこの学校に在籍した」と胸を張る野尻に学友は多い。

在学中、一科目でも基準以下なら落第の制度であつた昔。しかし

## 文化の会作り、会長に

### 「インテリゲンチア」のモデル

だからというわけばかりでなく野尻らは性格的にも強硬的でなく持久戦的な男であつた。じっくりと年月をかけて華道、茶道、舞踊、菊花などあらゆる範囲の人々へも呼びかける。おだてて参加させ働かせるのが野尻はうまい。新しく加入し彼と接触する者は、有名な、人脈も豊富な彼を偉い人だと思ひ込む。結果的に会長に選ばれ長くとめることになる。

営林署前にあつた野尻宅で葬儀が行われた告別の朝、彼に抱かれ

彼の場合は病弱による欠席日数の多いためである。だが、原因の多くは、のんびりした、余り物事にこだわらないおうようさによる。銭湯の富士見湯で「変わった奴がいる」と思われ、それが縁で長く親しい交友となつた山本武雄元市長の例でもわかる知人の多さだ。

文化運動に専念する野尻の手帳には文化にかかわる行事予定がびつしり書きこまれていた。どの会

合にも必ず出席する。その熱心さが会長におされ、道東一円、道内

の組織の代行にさせられた。「ご案内の通り……」で始まる会長挨拶は、多忙な彼として次の言葉を考え出すための必要なテクニクであつたのだ。

今なお「釧路文学館を考える会代表」。釧路市文化団体連絡協議会名誉会長「三浦綾子ミニ文庫を育てる会世話人代表」など肩書をもつ。

両切りピースの小函をはなさず、熱っぽく語る彼。ひよこひよこ歩き廻る小軀の彼。

預つた原稿をいつになったら整理してくれるのか、わからない。それに腹を立てていてはつきあえない彼。

司法書士の本業は二人の寧、悼の息子が継いでくれていたとはいへ、自由さをまったくもつた、普通人の尺度でははかりかねるスケールの大きな人物である。

昭和五年に東京で出版された高田寿(釧中教師高田喜久寿)著の長編小説「インテリゲンチア」は当時の学校中を、市内を騒がせた。

「二、三の煽動者が良くないのですな、大崎とか田尻とか。あれは全く不良少年ですから、此の際、厳罰に処す必要があると思ひますな」と登場するのが一条正と野尻瀨である。

いかに評されようと馬耳東風。

釧路のおみやげに！

しあわせをお菓子にのせて



熊さま  
せんべい  
焼手焼

# 熊さま



釧路市南大通2 ☎41-2121



# 「学園だより'93」母校の活動

文責 湖陵4期 和田 信幸

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。くまざさ'29号の発刊に当たって、母校の一年間をふり返りその概略を記します。

## 〈四月〉

- ・新年度スタート（8日、始業式・新任式。渡辺忠男教頭（前任校、江別高校）を含め教職員12名を新しくお迎えする。

- ・入学式（8日、新入生441名）。
- ・宿泊研修（15日～17日、1年生、川湯御園ホテルに宿泊して）。

- ・その他、PTA・後援会役員会及び総会、体位測定など各種健康診断、保健指導、就職ガイダンス（3年生）、進路調査、図書館ガイダンス、必修クラブ登録等々、新年度発足に伴って校内全体が多忙を極める。

## 〈五月〉

- ・釧路市内高校体育大会（俗称市内リーグ、13日）

- ・高体連羽根球釧根支部予選大会当番校業務（25日～27日）。
- ・高体連各種目競技の釧根支部予選（下旬～6月中旬、13部出場）。
- ・教育実習（31日～6月11日、卒業生18名）。

- ・他に、進路講演会、就職希望者父母説明会、壮行会等々。

## 〈六月〉

- ・高体連バスケットボール釧根支部当番校業務（1日～3日）。

- ・高体連全道大会に出場（14日～27日、羽根球・テニス・陸上・弓道・ソフトテニス・卓球・ハンドボール・サッカー・バスケットボール・柔道・山岳・バレーボールの12部）。うちハンドボール女子、弓道個人男子（八嶋清将2年）が優勝、全国大会へ。



個人優勝の八嶋清将（2年生）

- ・放送局、NHK全道放送コンテンツラジオ課題部門で入賞（全国大会へ）。

- ・高校囲碁選手権大会で伊関竜太（3年生）優勝（全国大会へ）。
- ・他に、模試、校内補習、下宿先訪問、壮行会等。

## 〈七月〉

- ・道教員採用試験（4日、会場校）。
- ・校内体育大会（14日～17日）。
- ・全国大会出場選手壮行会（24日）。

- ・高校野球選手権北海道大会に出場（20日～25日、旭川市）。
- ・夏期進学講習会（25日～8月1日、道東経済センター、3年生）。
- ・夏期校内補習授業（25日～31日、1・2年生）。

- ・放送局、NHK全道放送コンテンツに出場（27日～29日、東京）。
- ・全国高校囲碁選手権大会に、伊関竜太（3年生）出場（ベスト16、東京）。

- ・その他、就職希望者面接指導、模試、進路講演会等。

## 〈八月〉

- ・ハンドボール女子、高体連全国大会に出場（1日～7日、3回目、栃木市）。
- ・弓道個人男子、八嶋清将（2年生）高体連全国大会に出場（1日～2日、鹿沼市）。

- ・国体道予選に出場（陸上・弓道・卓球・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・ハンドボール）。
- ・第43回湖陵文化祭（27日～30日）。
- ・その他、校内補習授業、就職希望者校内選考等。

## 〈九月〉

- ・理数科全道研究大会当番校業務（2日～3日）。
- ・高文連釧根支部理科研究発表大会当番校業務（8日）。
- ・開校記念日（22日）。

- ・高文連書道釧根支部研究大会当番校業務（28日～30日）。
- ・高文連書道釧根支部研究大会

- ・他に、模試、校内補習授業等。

- ・高文連全道大会に参加（9月～10月、合唱（銅賞）・図書・新聞（編集技術賞）・書道（奨励賞・写真（佳作）・美術（優秀賞）・生物・アマ無線（奨励賞））。
- ・選抜全道大会（新人戦）に出場（8月～1月、サッカー・テニス・弓道・羽根球・陸上・剣道・ソフトテニス・バレーボール・ハンドボール（男女優勝））。

- ・見学旅行（2年生、東京、京都、奈良方面、23日～28日）。
- ・その他、各種模試、職員健康診断、列車添乗指導等々。

## 〈十一月〉

- ・全道高校演劇発表大会（12日～15日、優良賞）。
- ・進学模試（毎週）。

- ・3年生特別授業（前期10日～22日、午前授業）。
- ・高体連アイスホッケー全道大会（17日～19日、ベスト8、全国大会へ）。
- ・その他、模試、校内補習授業等。

## 〈二月〉

- ・大学センターテスト（15日～16日、254名）。
- ・高体連アイスホッケー全国大会（15日～21日、福島・ベスト16）。
- ・ハンドボール、選抜北海道大会で男女優勝、全国大会へ（男子12

- ・女子7回目、3月名古屋市）。
- ・3年特別授業（後期19日～31日、午前授業）。
- ・3年生家庭学習（1日～）。
- ・防災避難訓練（22日）。
- ・高校推薦入学面接試験（14日、理数科）。

## 〈三月〉

- ・高校入試（8日）及び入試業務（定員48名、今回より普通科学級定員3名減で42名）。
- ・第46回卒業式（1日、卒業生42、卒業生総数21,343名）。

以上概略を記しましたが、母校の動きが少しでもご理解いただけたいと思います。今年度もまた多忙のうちに経過しました。同窓生の皆さま、今後とも母校のため、後輩のためによりしくご援助のほどお願い申し上げます。

## 平成5年3月卒業生進路状況

	性別計	卒業生	職 望 希 望 者	学 生 進 希 望 者
5年3月卒	男	232	2	230
	女	204	9	195
	計	436	11	425
	決定数	—	9	285

平成5年3月卒業生進学状況(合格者延数と定数)

	男	女	計	合格者実数	過年度生
国立大学	66	68	134(133)	110(111)	53
私立大学	78	48	126(171)	82(98)	146
国立短大	4	18	22(15)	13(11)	2
私立短大	2	47	49(74)	32(40)	5
準大学	1	1	2(3)	1(1)	1
高等看護学院	0	22	22(30)	18(17)	0
専修学校	5	4	9(32)	9(31)	0
計	156	208	364(458)	265(309)	207

(前頁から)

( )は昨年度

# 事務局だより

同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝にて益々ご活躍のこととご拝察申し上げます。

また、常日頃から同窓会に対するご支援、ご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、平成五年八月八日、釧路キャッスルホテルにおきまして、平成五年度釧中、釧路湖陵同窓会総会並びに懇親会が開催されましたが、多くの同窓生参集し、盛大に行こなわれたところでございます。近年は若い方、そして女性会員が数多く見受けられるようになりましたが、これは同窓生の絆がよくなり、そして深く結ばれているということを意味し非常に喜ばしい現象であると思えます。

平成五年度は、湖陵十一期、二十一期、三十一期の当番幹事の皆様ご知恵をしばり、懇親会を盛り上げたところでございます。中でもフラメンコの踊りになると舞台からあふれんばかりの熱気が会場内に流れ、参会者一同しばし盃を重

ねるのを忘れたのではないかと思う一幕もあり、非常に楽しい一日を過ごすことが出来ました。当番幹事の皆様大変ご苦労様でした。月日の経つのは早いものと云われますが、実にそのとおりでございます。

ましてこの会報が出版されるとともに、平成六年度総会並びに懇親会の準備に取り組まなければなりません。ちなみに平成六年度の当番幹事は、湖陵十二期、二十二期、三十二期の皆様でございます。また大変ご苦労をおかけしますが、十年に一度の大役でございます。是非ご理解を賜わりご協力をお願い申し上げます。

さて、会員の皆様はこの会報誌におきまして幾度か触れさせて頂きました同窓会館建設のことでございますが、建設規模、あるいは内容、さらには建設費の面などにおいて、なかなかスムーズに決めることが出来ずまことに申し訳ないと思っております。なにせ一度建設致しましてから、気に入らな

いから簡単に建て直しや修正がきくという訳には参りませんので、おのずと慎重なうえにも面密な計画のもとに実行しなければならぬため幾度となく会議を持ち、最終段階のつめに入っているのが現状でありますので、もう少し時間をお貸し願いたいと思う次第でございます。いずれに致しましても同窓会館の建設は会員一人一人のご支援、ご協力をなくしては完成は出来ません、その節はくれぐれもよろしくお願い申し上げます。

本年もまた各支部での同窓会の総会が開催される時期が近づいて参りました、そして釧路湖陵同窓生の輪が益々大きく広がることが急務致すものであります。最後になりましたが同窓会会員の皆様のご健康と今後のご活躍をご祈念申し上げます、事務局からの便りとさせていただきます。(関口記)

## 丹葉大先輩 逝去

釧中8期の丹葉節郎氏が、平成六年二月十九日、逝去されました。

母校にあらん限りのご尽力をいただきました。ご冥福をお祈りいたします。

## 編集後記

例年になく雪が多いのは、冷夏、政変、長びく不況など、すっぱり包んで、雪割草のごとく清らかな新しい生命を育てるためなのでしょう。

長い間、「学園だより」として母校の活動を詳しくお知らせいただいております和信幸先生(湖陵四期)が、この春、退職されることになりました。長年に亘る先生のご労苦に対し心からお礼申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をご祈念いたします。(石川記)



くまざき編集委員会

同窓会々長 久本 甫

同窓会幹事長 関口 政司

編集委員長 上岡 信明

編集委員 奥田 達也

平野清次郎

石川 和男